



JIMIC-8 International Conference on Martensitic Transformations (ICOMAT-2011) 会議報告

JIMIC-8 (ICOMAT-2011)

組織委員：掛下知行 (大阪大学)

組織委員：宮崎修一 (筑波大学)

組織委員：西田 稔 (九州大学)

マルテンサイト変態に関する国際会議 (ICOMAT) は、1976年に神戸で最初に開催されて以来、3年あるいは4年毎に、世界各国で開催されており、当該分野では歴史と権威のある国際会議として認識されています。前回日本で開催されたのは1986年(奈良)であり、今回は25年ぶりの日本での開催となりました。日本におけるマルテンサイト変態研究の草分けである、故西山善次先生が活躍された大阪の地で ICOMAT-2011 を開催できたことに、組織委員一同喜びを感じております。会議は9月4日から9日にわたり、大阪府豊中市の千里阪急ホテルにおいて開催されました。3月におきた東日本大震災と原発事故に伴う風評により開催が一時危ぶまれたことや、直前の台風12号の影響で空・陸の交通が大幅に狂うなどのトラブルにも拘らず、28カ国/地域309名の研究者が参加し(表1)、盛会のうちに終了しました。

開会に際しては、日本金属学会会長の落合庄治郎先生をはじめ大阪府知事の橋下徹様(楠本正幸国際交流監代読)、大阪大学学際融合教育研究センター長の久保司郎先生から大変暖かい歓迎の御挨拶を頂きました。今回の国際会議のひとつの特徴は、会議期間中を通して、高い出席率が維持できたことです。閉会式においても、ほぼ参加者全員に出席して頂いたのは、ICOMAT では初めてのことであり、組織委員一同感動しております。

研究発表としては66件の口頭発表と205件のポスター発表計271件があり、研究内容について活発な討論が行われまし

た。新しい研究が幾つか出てきており、今後の発展が期待されます。具体的な発表内容として、Fundamental Aspect and Theoretical Approach に関する口頭発表が11件、Transformations in Ti-Ni Alloys に関する口頭発表が9件、Transformations in Iron and Steels に関する口頭発表が8件、Novel Characterization of Transformations に関する口頭発表が6件、Precursor Phenomena of Transformations に関する口頭発表が5件、Transformations in High Temperature Shape Memory Alloys に関する口頭発表が3件、Transformations in β -Ti and Related Alloys に関する口頭発表が3件、

表1 参加国/地域内訳。

国/地域名	人数
日本	136
中国	33
韓国	27
ドイツ	20
米国	17
ロシア	16
スペイン	13
フランス	9
オーストリア	3
ベルギー	3
チェコ	3
ハンガリー	3
台湾	3
オーストラリア	2
ブラジル	2
フィンランド	2
インド	2
オランダ	2
フィリピン	2
スウェーデン	2
英国	2
アルゼンチン	1
カナダ	1
デンマーク	1
イラン	1
メキシコ	1
ポーランド	1
スイス	1
合計	309名



写真1 バンケットにおける鏡割りの様子。酒樽は財大阪観光コンベンション協会様のご提供。左より大塚和弘、清水謙一、平野俊夫、掛下知行、宮崎修一、佐分利敏雄、落合庄治郎、西田稔(敬称略)。

Transformations in Ferromagnetic Shape Memory Alloys に関する口頭発表が16件, Applications of Transformations to Smart System に関する口頭発表が6件あり, ほぼ同じ比率でポスター発表がありました。ポスター発表も, 近年にない盛況となり, ポスターの発表者も大変喜んでおりました。これは, ポスター会場で夕食に近い料理を出したことも一因かもしれません。

会議中に行われた, 同伴者プログラムでは, 大阪・京都の主要な文化施設の見学に加えて, 会場である千里阪急ホテルにおいて, お琴の演奏をバックに日本文化の生け花とお茶を体験していただきました。生け花は小原流, お茶は裏千家の師匠に指導していただき, 大変好評でした。

パンケットでは, 小原流の師匠ならびに, 同伴者プログラム参加者に作っていただいた生け花の作品が参加者を出迎えました。大阪大学総長の平野俊夫先生による挨拶に続いて, 太閤秀吉が愛したといわれる大阪の天野酒による鏡割り(写真1)と清水謙一先生の音頭による乾杯で, パンケットは始まりました。NIMSの津崎兼彰先生による楽しい司会で, パンケットも大変盛り上がりました。途中, 震災見舞いに対する感謝の挨拶と今後の意気込みを東北大学の村上恭和先生にお話し頂くとともに, 東北大学大学院生の許晶君にピアノ演奏して頂きました。さらに, 世界的に活躍されている大阪北摂の和太鼓演奏(高槻太鼓)もあり, その素晴らしさにスタンディングオベーションが出るほどでした。

プログラム等会議の詳細は <http://www.mat.eng.osaka-u.ac.jp/icomat/> をご参照ください。プロシーディングス集は Journal of Alloys and Compounds の Supplemental Issue として発行される予定です。また, 次回の ICOMAT はス페이



Program & Abstract

写真2 参加者に配布したプログラム及びアブストラクト集の表紙。

ンのビルバオで2014年に開催される予定です。最後に, 会議の成功を讃えるメールを多くの方々から頂いたことに感謝致します。